あまにゅう

青森県青年海外協力協会（AOCA）広報誌
平成２３年６月号（2011．6）
発行：　青森県青年海外協力協会
編集担当：大賀重樹（5－１ホンジュラス）

青年海外協力隊員経験者としてできることを

会長　村木裕俊（Ｈ１９－２ シリア　果樹栽培）

AOCA 会長に就任しました村木裕俊です。帰国して日も浅く、AOCA の活動に参加する機会も少なかったのでご存じない方も多いかと思いますが、私は 19 年度 2 次隊、果樹栽培隊員としてシリアに赴任しておりました。現在は青森市内の会社で働いております。

3 月の東日本大震災を受け、太平洋沿岸地域を中心に日本は甚大な被害を受けました。地震、津波による 1 次的被害も去ることながら、地域経済の冷え込みという 2 次的被害も青森市内の民間会社に身を置くものとして痛切に感じています。

途上国に身を置き、その国の発展を思い活動する青年海外協力隊。今こそその思いを地元に向け、役立てるべき時ではないかと私は思っています。そんな思いを少しでも形にすべく、皆様とともに活動できることを楽しみにしています。

まだ人生経験も社会人経験も浅く、至らぬところが多々あるかとは思いますが、任国で培ったチャレンジ精神を武器に様々なことに挑戦していきたいと思います。どうかようよろしくお願いいたします。

ＦＭ青森に出演して、活動報告をする村木会長　→

青年海外協力協会広報誌「あまにゅう」は、主に青森県出身の青年海外協力隊の参加経験者からなる団体の広報誌です。この広報誌を発行することを通して、県内在住のＯＢ・ＯＧの情報交換をするほか、私たちの活動に興味のある方々に私たちの活動についての理解を求めるとともに、国際協力・国際理解の輪を広げることを目的として発行します。

「あまにゅう」の由来

「あまにゅう」は八甲田をはじめとした、高山にあり、きれいな白い花をさかせる植物です。普段は人知れず咲いているのですが、一旦山に登ると大きくてはっきりと確認できる植物です。青森に住んで、世界のことを考えながら決して途上国への情熱を忘れない、そんな協力隊経験者と通じるところがあるようで、機関誌を作ったときにその名前を採用されました。
なお、名付け親は川村宏義氏「あまにゅう」の初代編集者です。

２２年度４次隊が出発！

３月１６日に予定されていた県庁表敬も壮行会も中止となりましたが、3 月 20 日、新隊員　兼田 知幸さん（ネパール　村落開発普及員）の自宅のある八戸に行ってお餞別を渡しました。兼田さんが被災されたのは、派遣前の訓練が無事終わり、長野県の駒ヶ根駅で帰りの切符を買おうとしていた時でした。急遽、日本海まわりの切符をとったものの、テレビに映った公民館が見慣れた近所の公民館だったこともあり、ご家族の安否を心配されたようですが、無事とのメールが届き安心したそうです。八戸に戻るまでも多くの方々に温かい励ましの言葉をかけてもらったことが何より嬉しかったそうです。

壮行会が開催できませんでしたが、八戸市内の海岸線を 2 時間弱歩きながら、任国のことやご家族のこと等を話しました。

最後にピア・ドウでお餞別を渡し、無事に活動されるよう激励しました。どうか元気いっぱい活動に従事されますように。（大賀）

決意を熱く語ってくれた兼田隊員

今年度の主な活動

【6 月】　ＪＩＣＡボランティア県庁表敬及び壮行会
【7 月】　八甲田港フェスティバルにブース参加
　　ＪＩＣＡボランティア二次試験対策勉強会の実施
【8 月】　五所川原立ねぶた運行に参加
　　青森市新町ふれあい広場にブース参加
【9 月】　ＪＩＣＡボランティア県庁表敬及び壮行会
【10 月】　生涯学習フェアにブース参加
　　ＪＩＣＡボランティア秋募集説明会開催
【11 月】　国際協力写真展の開催【青森市・アスパム】
　　ＪＩＣＡボランティア留守家族連絡会の開催
【12 月】　ＪＩＣＡボランティア県庁表敬及び壮行会
　　ＪＩＣＡボランティア二次試験対策勉強会の実施
【1 月】　ＪＩＣＡボランティアへのふるさと宅配発送
【3 月】　ＪＩＣＡボランティア県庁表敬及び壮行会

これらのほかにも、ＪＩＣＡボランティア経験者が学校等へ出かけて行う出前講座や役員会等も随時行っています。私たちの活動に興味のある方は、我々がブース参加するイベント等にぜひおいで下さい。大歓迎です。また、ＪＩＣＡボランティアに関しては、我々のホームページにぜひ遊びに来て下さい。アドレスは、philo-sophia.me/**aoca** お待ちしていま

始めてみたこと　やってみたこと

★5 月 1 日から 2 週間、仙台のボランティアセンタースタッフに参加しました。津波被害が大きかった仙台市若林地区の南部津波災害ボランティアセンターでの 2 週間の運営支援を終えて帰宅しました。いろんな出会い・困難がありましたが、協力隊での活動を思い出しました。現場に出ない裏方さんですが、被災して復興を目指す方々やボランティアとして現場を志す皆さんのお手伝いができて参加して良かったと感じています。（對馬　均　６－３コートジボワール養

中央が、對馬ＯＢ

参加して良かったとのこと

★AOCA の皆様寄付や支援物資提供、ありがとうございました！私は 4 月 16 日、支援物資を「トヨタレンタリース青森」から寄贈されたワゴン車に積んで、陸前高田市へ行ってきました。朝 9 時 40 分に青森を出て、陸前高田市に着いたのが大体午後２時半。町の５Ｋｍくらい手前から、道路に沿って流れる川に津波で運ばれたのであろう瓦礫が川の両側を埋め尽くし、町の入口に着いた時は、呆然。瓦礫に多い尽くされた陸前高田市と遥か遠くに見える、流されずに残ったビルがポツリ。テレビなどで見た光景ではあるはずなのに、実際目にすると自然の力のすごさと人間の非力さに驚愕し、思わず涙がこみ上げ、道から落ちそうになりました。陸前高田社会福祉協議会に支援物資を引き渡し、帰路に着いたのが午後４時。何かお手伝いもしたかったのですが、わずか一時間あまりの間にできる仕事を見つけさせることや、我々が居る事で福祉協議会の人が作業を中断して我々に対応している事を考えると、少しだけお話を聞いて帰ることにしました。道々に「支援のみなさまありがとう！」「ガンバロー！岩手」「水あり無料」などの看板が立てられ、福井、千葉、大阪ナンバーのパトカー、京都ナンバーの給水車、KOBE のスタッフジャンバー、そして北海道や東北各地から来ている自衛隊など、全国からの支援を目の辺りにし、「いまここで出来る事」と共に、「現地で出来る事」も模索します。ゴールデンウィーク、防災士会の車を借りて、陸前高田か仙台へ行きます。防災士会も、次の物資支援のために弘前で募金活動を計画しています。復興には長い時間かかります。支援も息の長いものにしたいと思います。（防災士：相馬多一郎　６２－２　コロンビア　村落開発普及員）

★4 月 16 日・23 日と弘前市による災害ボランティアに参加し、岩手県の野田村に行きました。弘前市役所を朝の 5 時に出発し、午前 9 時から午後 3 時まで側溝の泥上げやがれきの中から貴重品とゴミを分別する作業をしてきました。予想はしていたものの津波の破壊力にただ呆然とするばかりでした。自分たちができることは本当に小さなことですが、何かやることで日本という国が、確実に復興へと進むのだと感じました。23 日には對馬千佳子 OG も参加されていました。AOCA でも、ボランティア隊を結成し、災害ボランティアとして参加できればと考えています。その時には、みなさんよろしくお願

東日本大震災　被災 OV 支援募金 ご協力のお願い【４月１５日】

３ 月 11 日に発生した大地震により、東日本の広範囲において甚大な被害が発生し、今なお不自由な生活を強いられています。東北各県の OV 会でこれまで確認できただけでも、20 名近くの青年海外協力隊 OV が自宅の全・半壊や、原発事故による長期の避難など厳しい状況に直面しています。

このような状況に、全国の協力隊 OV から被災地へ支援のお申し出をいただきましたので、下記の通り募金の窓口を開設することといたしました。これまで地域の核となって働き、社会活動に参画してきた OV が、地元で再び生活の基盤を築き、地域社会の一員としてその役割を果たしていくことは、震災復興の一翼を担うものと考えます。地元でがんばりたいと思う OV を、皆様の力で支えてくださいますようお願い申し上げます。

１．募金名称

「東日本大震災　被災 OV 支援募金」

２．発起人

青森県青年海外協力協会会長　大賀重樹
岩手県青年海外協力協会会長　矢萩花恵
宮城青年海外協力協会会長　小野寺学
青年海外協力隊秋田県 OB 会会長　松橋秀男
NPO 法人山形県青年海外協力協会
会長　加藤和宏
ふくしま青年海外協力隊の会会長　小熊則子

３．募金受付額　金額の多寡は問いません。皆さんのお気持ちで結構です。

４．受付期間　平成 23 年 4 月 15 日～6 月 30 日

５．振込先　ゆうちょ銀行・郵便局
口座記号番号　０２２００－９－１２５８０４
口座名称「青年海外協力隊　東北ブロック OV 会」

６．寄付先　被災された OV に支援金を送ります。支援金の受給を希望する OV より申請書を提出いただき、被災状況を確認した後、受け付けた募金総額を鑑み、支援金額を決定して該当 OV に送金いたします。（7・8 月頃を予定）今回の被災地は 15 余の都道県に渡っているため、支援金の　支給対象は東北地方在住の OV だけでなく、全国の被災地に在住する OV とします。

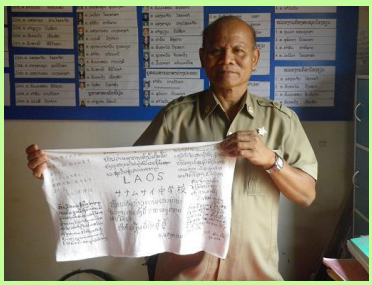
７．その他　お預かりしたお金は、発起人が責任を持って管理し、支援金受給を希望する OV に対し、別に定める支援金支給規定に則り、その被災状況に基づいて公平に分配します。

８．問い合わせ　(支援金受給希望の方もご連絡ください。）ふくしま青年海外協力隊の会　会長　小熊則子　携帯　090-8785-5963
FAX0242-33-0877 norikobear88@yahoo.co.jp

３．１１以降　海外派遣中の協力隊員は・・・

「３．１１ラオスでは」

こんにちは、ラオスの三上です。震災の起こった３月11日、私は夜にネットで詳細を知り、次の日の朝、フランスのテレビ番組で大量の車が津波に飲み込まれる映像を見ました。学校や市場では話したことのない人にも「日本の家族は大丈夫か？津波は？」と心配されました。その後ラオスの隊員でメッセージを送ろうということになり、うちの先生にも協力してもらいました。



集まった布は縫い合わせて日本の国旗とラオスの国旗にして避難所でもあるNTCに近々送付されるそうです。日本の緊迫した状況とは対照的にラオスは４月14～16日がラオス新年で、水を掛け合ったり、顔に白い粉を塗ったりしました。

直前にもらったラオスの教員の制服（添付の写真２枚目で私が着ているものです）も水で重くなっちゃうし、白い粉で真っ白になりましたが、笑いすぎて顔が筋肉痛になるくらい楽しかったです。

最後のほうになってやりたいことがたくさん出てきて、あと２ヶ月で帰国するという気がしないのですが、ここで焦って体調を崩したらそれこそ中途半端に終わってしまうので、気を引き締めていかねばと思っています。復興に向けてたくさんの人が活動されていると思われますが、みなさまも身体にお気をつけて毎日をお過ごしください。

（21-1・ラオス・理数科教師・三上佳津江　４．17）

「赴任して慣れてきました」

Ｈ２２年度３次隊　外崎美佳子です。ウズベキスタンにきて、約３か月だいぶ生活にも慣れて、職場の雰囲気もとてもよく、今は何をするわけではなく、診療所のスタッフや患者さんとコミュニケーションをとることが私の仕事だと思って、頑張っ ています。しかし、スタッフの動きを見ていると、日本では考えられないことがちらほら見受けられ、唖然とすることもありますが、患者の命に関わることではないので、これがウズベキスタンのスタイルなのだと、今は思うようにしています。

最近、twitter　を始めました。むつ市のホームページからも見られますので、是非見てください！では、また近況報告しますので、よろしくお願いします。

追伸　民族衣装の「アトラス」を貸してもらいました。（４．１３）

AOCAのTwitterでは外崎さんもフォローしています。外崎さんのアカウントは http://twitter.com/Uzbeki_mutsu/です。おもしろいつぶやきをしていますので是非フォローして下さい。

「パラグアイで募金開始」

青年海外協力隊22－1（パラグアイ国派遣中）の大久保です。先日の東北地方太平洋沖地震にて、お見舞い申し上げます。八戸、特に漁港も大きな被害を受けたと聞いていますが、「八戸港で地震後初の水揚げ」というニュースを見て、希望を感じ涙が出ました。

ほかの国にいて、インターネットを通して募金をするも、被災地に駆けつけられないもどかしさ、無力さを感じています。パラグアイの方も、「家族は大丈夫か」「日本は大丈夫？」と心配され、声をかけてくださいます。また、「パラグアイは今まで日本に、たくさん援助されてきたから、今度はパラグアイが日本を助けなくてはいけないね」という暖かい声も多く聞かれます。

先日４月１日（金）、２日（土）、パラグアイ首都、アスンシオン独立記念広場で東北地方太平洋沖地震で被災された方の支援のために、チャリティーイベント「日本・パラグアイは兄弟。心はひとつ」が実施されました。　このイベントは、日系社会とパラグアイ政府機関が中心となり企画・運営したもので募金は、イグアス日本人会が無償で提供した大豆100tを100万丁の豆腐に加工被災地に配送するための生産流通コストに充てられます。私たちJICAボランディアも、イベントに一個人として参加しました。イベントではオリジナルTシャツ、ろうそく、太巻き寿司、日本の漫画の販売や、募金活動がされました。パラグアイの方も積極的に協力、準備してくださり、ステージでダンスの披露、日本刀の演舞など、イベントを盛り上げてくださいました。最後のスライドショーでは、戦時、原爆投下の映像から、今回の地震の写真が放映され、改めて、被害の大きさ、悲惨さを感じ、黙とうと共に１日でも早い復興、援助、また犠牲者のご冥福を祈りました。今回の場を提供してくださった、日系社会の皆様とパラグアイ政府に本当に感謝です。写真はそのイベントのものです。何かに役立てられればと思い添付させていただきました。自分の活動は、カウンターパートのやる気に恵まれ、日々、子どもの訓練を通して話し合い、来月には、養護学校での講習会が予定されています。自分の置かれた場所で、精一杯活動していこうと思います。日本での援助活動に励まれていらっしゃると思いますが、くれぐれもお身体ご自愛ください。

（22-1　パラグアイ　作業療法士　大久保　歩　４．20）

反響は大きく、復興に向けて激励して頂きました。

写真や地図には、多くの方が集まりました。

JICA ボランティア春募集説明会を開催

東日本大震災の影響で、実施が危ぶまれていた JICA ボランティア募集説明会ですが、５月２１日【土】に青森市内で開催されました。　例年なら新聞等でのお知らせが入るのですが、今回は我々AOCA 独自での開催となったため、ホームページでの案内のみでしたが、６名もの参集者が集まりました。青年海外協力隊の OB も県内から７名が集まり、内容の濃い個別説明会となりました。

まもなく一次試験ですが、合格を願っています。また、７月２３日には、一次試験合格者を対象とした二次試験対策勉強会を開催します。一次試験に合格された方はぜひご参加下さい。レアな情報を提供します。申し込みは、メールで大賀までお願いします。

E-mail: momotarooga@ybb.ne.jp

試験の難易度、職種の選び方、任国の治安や活動内容、帰国後の進路など質問がいっぱいでました。

平成２３年度１次隊がいよいよ出発

23 年度１次隊の訓練も終わり、いよいよそれぞれの国に向けて出発となります。この日は午前中に青森県庁に表敬訪問に行き、夕方から AOCA 主催の壮行会を以下の日程で開催します。今回出発される隊員は以下の５名となります。ぜひご参加下さい。

日時：６月 15 日　18:30～20:30
場所：日本海庄や　青森駅前店
http://search.daisyo.co.jp/shop.php?shop_cd=1571

●青年海外協力隊
伊藤　真弓さん　ガーナ　行政サービス
長谷川 里子さん キルギス 日本語教師
留目　真希さん　ホンジュラス 小学校教諭

●日系社会青年ボランティア
櫻井　光彦さん　ブラジル　小学校教諭・日本語教育
山口　明美さん　ブラジル　日系日本語学校教師

参加申し込みは、青森 JICA デスクの越善までお願いします。TEL:０１７－７３５－２２４９（直通）
E-mail:jicadpd-desk-aomoriken@jica.go.jp

青年海外協力隊員OBがんばっています

日本環境教育学会の全国大会にて南澤英夫ＯＢがワークショップを行います。詳しくはホームページをご覧下さい。
大会テーマ：「地域の課題解決に役立つ環境教育-新たな展開を目指して」　**2011 日本環境教育学会 http://www.jsoee.jp.**
期　　日：７月１６・１７日　　会　　場：青森大学　　参　加　費：無料
基調講演　：演題「津軽平野で戯れた土から小惑星イトカワの砂粒へ」（講師　川口淳一郎氏（宇宙航空研究開発機構）
対　　談：演題「奇跡のりんごー土から学んだ生きる力」（講師　木村秋則氏（木村興農社代表）×鬼頭秀一氏（東京大学）
対　　象：小学校・中学校・高等学校教員、及び環境教育に興味のある方
WS「毛糸を使って考える世界とのつながり」南澤英夫氏（８－１　マレーシア　日本語教師）（青森県立むつ工業高校）

ＮＩＥ全国大会青森大会にて大賀重樹ＯＢがパネルディスカッションのパネリストを務めます。
期　　日：７月２５・２６日　　会　　場：青森市文化会館　　参　加　費：無料
基調講演：記念講演「『ことばの力』を身に付ける　ー急速に変化する世界だからこそ、立ち止まって考えよう」
（講師　北川　達夫氏（日本教育大学院大学客員教授）
パネルディスカッション：「読み解く力　新聞で　ー新学習指導要領とＮＩＥ」
基調提案＆コーディネーター　　青森県ＮＩＥ推進協議会会長　児玉　忠（弘前大学教授）
パネリスト　杉本直美氏　（文部科学省国立教育政策研究所学力調査官）
阿部　昇氏　（秋田大学教授　　日本ＮＩＥ学会理事）
大賀重樹氏　（５－１　ホンジュラス　小学校教諭）（青森市立千刈小学校教諭）
南谷　毅氏　（東奥日報社生活文化部長）

Newspaper in Education

www.toonippo.co.jp/kikaku/nie-aomori/index.html

今月以降の主な予定と情報

６月１５日(水)　　２３年度１次隊県庁表敬及び壮行会（青森市内）
６月２４日・２５日　東北ブロック震災復興会議（仙台市内　村木ＯＢ・大賀ＯＢ参加予定）
７月１７・１８日(日・月)　八甲田港フェスタにブース参加予定(青森市)
７月２３日(土)　　ＪＯＣＶ二次試験対策勉強会(青森市　水産ビルにて　13：00)
８月　６日（土）　　五所川原立ねぶた運行に参加予定（五所川原市）